

< 報道発表資料 >

(府・市・大学・経済同時)

令和 8 年 4 月 8 日

「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会

京都府総合政策環境部脱炭素社会推進課
京都市環境政策局地球温暖化対策室

「KYOTO 地球環境の殿堂」第 16 回殿堂入り者 2 名を決定

「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会は、選考委員会において、「KYOTO 地球環境の殿堂」第 16 回殿堂入り者として、新海 誠氏、デブラ・ロバーツ氏の 2 名を決定しました。

なお、表彰式を、令和 8 年 11 月 21 日（土）に国立京都国際会館で開催します。

【第 16 回殿堂入り者】

- しんかい まこと 新海 誠 氏 (1973 年生 日本)

【映画監督/アニメーション作家】

異常気象を背景に、運命に翻弄される少年たちを描いた『天気の子』や、災害と記憶をテーマに日本各地の風景をすくい上げた『すずめの戸締まり』など、環境と人間の関係を考える契機となる作品を世界に発信し、文化的な視点から多くの人に影響を与えた。



新海 誠 氏

- デブラ・ロバーツ 氏 (1961 年生 南アフリカ共和国)

【クワズールー・ナタール大学生命科学部名誉教授/
トゥウェンテ大学地球観測科学・地理情報科学学部ウィレム・スヘルメルホーン記念マジョリティ・ワールド視点のオープンサイエンス教授】

2019 年に気候政策において世界で最も影響力のある 100 人に選ばれるなど、都市レベル及び国際レベルの両方で、生物多様性の計画・管理や、気候変動への適応と緩和、持続可能な開発とレジリエンスの分野において貢献。



デブラ・ロバーツ 氏

【「KYOTO 地球環境の殿堂」表彰式】

- 日時：令和8年11月21日（土）午後
- 会場：国立京都国際会館 Room A（〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422）
- 内容：殿堂入り者表彰式、記念スピーチ ほか
- 主催：「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会（京都府・京都市・京都商工会議所・環境省・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構総合地球環境学研究所・公益財団法人国際高等研究所・公益財団法人国立京都国際会館）
※ 表彰式等の詳細については、改めてお知らせします

【問い合わせ】

「KYOTO 地球環境の殿堂」運営協議会事務局

※本取組に係る内容につきましては、いずれかにお問い合わせください。

- 京都府総合政策環境部脱炭素社会推進課
電 話：075-414-4830
- 京都市環境政策局地球温暖化対策室
電 話：075-222-4555

「KYOTO 地球環境の殿堂」について

○「KYOTO地球環境の殿堂」とは

「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした方の功績を称えるとともに、京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取組に資することを目的として、気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）が開催された、国立京都国際会館にその功績を展示し、殿堂入り者の表彰式を開催しています。

○選考基準

KYOTO地球環境の殿堂入り者は、次の基準に照らし、世界的な視点から地球環境の保全に多大な貢献をされたと認められる候補から選考

- (1) 京都議定書をはじめとする地球環境保全に関する世界的な制度の成立や合意形成に多大な貢献をされた方
- (2) 世界の人々に対する環境と共生する思想・哲学の普及や意識啓発、環境保全に関する活動の実践により地球環境の保全に多大な貢献をされた方
- (3) 地球環境問題の解決に資する画期的な学術研究や技術開発を行い、その成果が現実に地球環境問題の解決に大きく貢献していると認められる方
- (4) 芸術文化活動やエコなライフスタイルの実践など、地域での創造的な環境活動により、環境保全に貢献していると認められる方

○過去の殿堂入り者（参考）

回	表彰式	氏名	国籍等
1	2010/2/14	ワンガリ・マータイ	ケニア
		真鍋 淑郎	アメリカ合衆国
		グロ・ハルレム・ブルントラント	ノルウェー
2	2011/2/13	原田 正純	日本
		シグミ・シンゲ・ワンチュク 陛下	ブータン王国
		エリノア・オストロム	アメリカ合衆国
3	2012/2/12	レスター・R・ブラウン	アメリカ合衆国
		クラウス・テプファー	ドイツ
4	2013/2/17	エイモリー・B・ロビンズ	アメリカ合衆国
		ヴァンダナ・シヴァ	インド
5	2014/2/23	宮脇 昭	日本
6	2015/2/7	畠山 重篤	日本
7	2016/2/13	ハーマン・E・デイリー	アメリカ合衆国
		デヴィッド・タカヨシ・スズキ	カナダ
		セヴァン・カリス＝スズキ	カナダ
8	2017/2/11	中村 哲	日本
		ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノ	ウルグアイ
		オギュスタン・ベルク	フランス
9	2018/2/10	デニス・L・メドウズ	アメリカ合衆国
		マーガレット・アン・マッキーン	アメリカ合衆国
		ミゲール・A・アルティエリ	アメリカ合衆国
10	2019/2/9	クリスティアナ・フィゲレス	コスタリカ
		山折 哲雄	日本
		エゴ・レモス	東ティモール
11	2020/2/11	IPCC 気候変動に関する政府間パネル	スイス連邦
		メアリー・ロビンソン	アイルランド共和国
12	2021/11/15	槌屋 治紀	日本
		マニユエル・プルガール・ビダル ※1	ペルー
		クリス・トンプキンス ※1	アメリカ合衆国
13	2022/11/14	ヨハン・ロックストローム ※2	スウェーデン
		村上 一枝	日本
		西岡 秀三	日本
14	2023/11/18	ジル・クレマン ※1	フランス共和国
		中村 桂子	日本
15	2024/10/14	甲斐沼 美紀子	日本
		パーサ・ダスグプタ ※1	イギリス
		山岸 哲	日本

※1 ビデオメッセージ ※2 オンライン中継

「KYOTO地球環境の殿堂」第16回殿堂入り者



新海 誠
(Shinkai Makoto)

(1973年生 日本)

映画監督/アニメーション作家

2002年、個人制作の短編作品『ほしのこえ』で商業デビュー。2016年公開の『君の名は。』は、社会現象を巻き起こすほどの大ヒットを記録し第40回日本アカデミー賞でアニメーション作品初の優秀監督賞・最優秀脚本賞を受賞。

2019年公開の『天気の子』では、異常気象を背景に運命に翻弄される少年たちの姿を描き、人々の行動変容に大きな影響をもたらす作品に授与されるソーシャル・インパクト賞（文化庁）を受賞（2020年）。その他、同作は第43回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞・最優秀音楽賞（2020年）を受賞し、第92回 米国アカデミー賞国際長編映画賞部門 日本代表に選出された（2020年）。

また、2022年公開の『すずめの戸締まり』では、災害と記憶をテーマに日本各地の現代の風景をすくい上げ、第73回ベルリン国際映画祭 コンペティション部門へ出品され（2023年）、第81回ゴールデングローブ賞 最優秀アニメーション作品部門にノミネート（2024年）されるなど、世界中で高く評価された。

加えて、新海氏の作品に通底する緻密な風景描写は、環境の変化に対する気づきを促し、世界中の人々にむけて、身近な自然とのつながりを再認識させる契機となっている。



デブラ・ロバーツ
(Dr. Debra Roberts)

(1961年生 南アフリカ共和国)

クワズールー・ナタール大学生命科学部 名誉教授/トゥウェンテ大学 地球観測科学・地理情報科学学部 ウィレム・スヘルメルホーン記念マジョリティ・ワールド視点のオープンサイエンス教授

40年以上もの間、生物多様性の計画と管理、気候変動への適応と緩和、持続可能な開発とレジリエンスの分野において、科学と政策と実践の接点で、地域レベルおよび国際レベルでの研究に取り組み、気候変動と開発に関する議論に影響を与えてきた。

1994年から2024年には、eThekweni市（南アフリカ）の持続可能でレジリエンスな都市イニシアティブ部門と環境計画・気候保護部門を率い、2015年には、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書に対する第2作業部会の報告書のうち、第8章（都市部）の主執筆者に選出された。第6次評価サイクル（2015-2023年）のIPCC第2作業部会（影響、適応、脆弱性）においては、アフリカ出身女性初となる共同議長として活躍した。

これらの活動により、2019、22、23年には、「気候政策で最も影響力のある世界の100人」に選出された。また、適応に関する世界委員会、都市と地方自治連合、ICLEI-持続可能性のための地方自治、国連事務総長気候サミット、SDGs都市金融のための世界委員会、WMO世界気象研究計画、UN-Habitat、UNEPなど、数多くの顧問を務めている。

「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会の委員等

「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会		
名誉会長	環境大臣	石原 宏高
会長	総合地球環境学研究所所長	山極 壽一
副会長	京都府知事	西脇 隆俊
	京都市長	松井 孝治
	京都商工会議所会頭	堀場 厚
委員	環境省地球環境局長	関谷 毅史
	国立京都国際会館館長	増田 優一
	国際高等研究所所長	西尾 章治郎

「KYOTO地球環境の殿堂」選考委員会		
選考委員	特定非営利活動法人気候ネットワーク 代表	浅岡 美恵
	京都精華大学客員教授	ウスビ・サコ
	山階鳥類研究所 シニアフェロー、専務理事 関西学院大学 名誉教授	奥野 卓司
	歌手(元国連環境計画親善大使)	加藤 登紀子
	世界自然保護基金(WWF)ジャパン 専門ディレクター(環境・エネルギー)	小西 雅子
	東京大学未来ビジョン研究センター 教授	高村 ゆかり
	学校法人先端教育機構SDGs総研 主任研究員 日本ビジネス出版環境ビジネス編集長	白田 範史
	イクレイ日本理事長 一般社団法人海外環境協力センター理事長	竹本 和彦
	環境省地球環境局長	関谷 毅史
	公益財団法人大学コンソーシアム京都 理事長	小原 克博
	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 所長	山極 壽一
	公益財団法人地球環境産業技術研究機構 理事・研究所長	下田 吉之

(所属・役職は選考委員会開催時点(令和8年1月)のもの)